

第1号議案

道路改築事業

国道353号 金井バイパス 渋川市金井

着工年度

平成17年度

評価理由

5年継続

1.事業の目的

国道353号金井バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や八ッ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るものである。

【上信自動車道全体の効果】

医療機関への搬送時間の短縮

吾妻地域から県央地域の第3次医療機関への60分圏域人口が約1万1千人増加

【約115千人 約126千人】

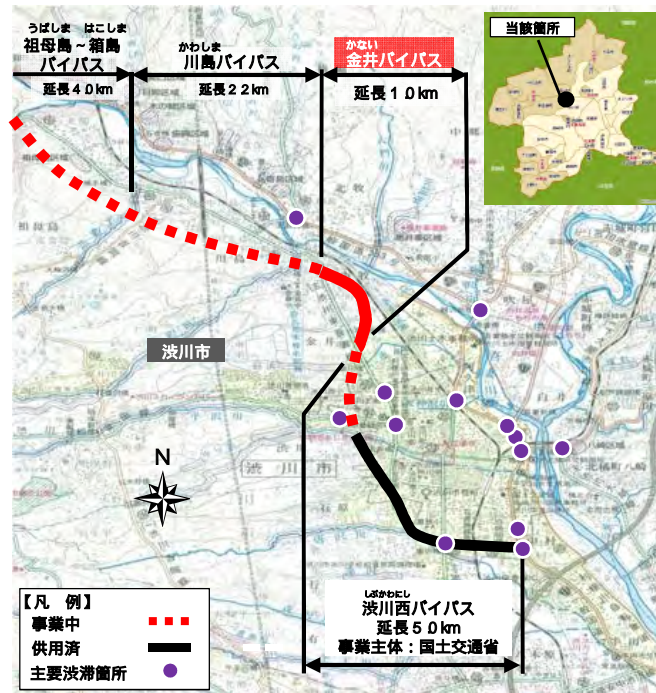
関越自動車道へのアクセス向上

関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮

【約90分 約60分】

八ッ場ダム地域の生活再建を支援

【ち金井バイパスの効果】

国道353号及び渋川市街地周辺の渋滞緩和
北群馬橋交差点 渋滞長400m 解消

2.事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	渋川市金井	
区分	今回	当初
全体事業費	5,300百万円	3,700百万円
全体事業費増減の理由	埋蔵文化財調査区域の追加(金井東裏遺跡) 文化財現地保存に伴う道路構造の変更	
事業期間	H17~H30	H17~H27
事業内容	道路延長 1,000m 幅員 10.5m	道路延長 1,000m 幅員 10.5m

事業経緯

年度	主な経緯
H17	事業着手
H23	用地買収着手
H24	工事着手

進捗状況

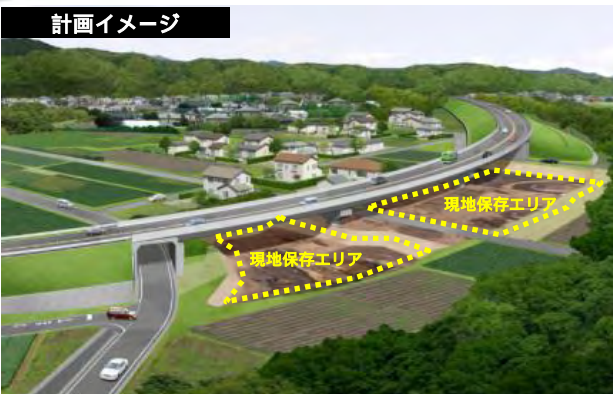
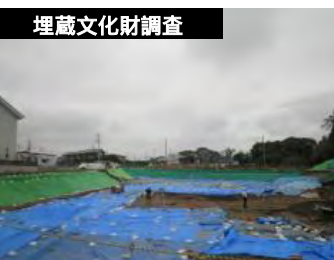
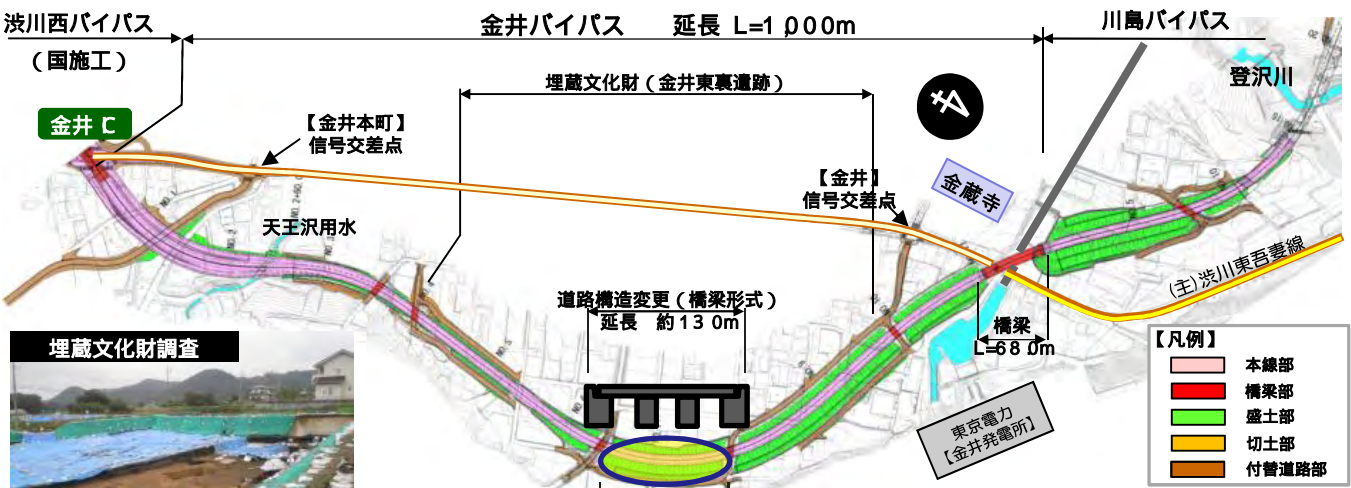
	全体計画	現在の進捗状況(進捗率)	前回評価時の進捗状況(進捗率)
事業費	5,300百万円	2,484百万円 (46.9%)	81百万円 (1.5%)
用地買収	43,057m ²	38,537m ² (89.5%)	0m ² (0.0%)
計画延長	1,000m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

2.事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」



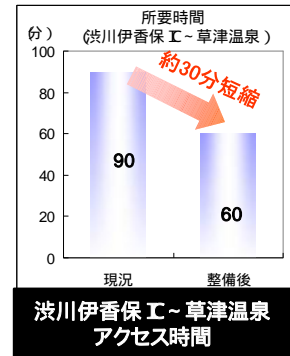
金井バイパス概要



3. 事業の目的 必要性に変化はあるのか？

吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により 物流 観光等の地域間交流の活性化や、中核的医療施設への患者搬送時間短縮が望まれおり、事業の目的 必要性に変化はない。
 国道353号(渋川市村上)では、北群馬橋交差点を中心に渋滞が発生しており、吾妻地域の活性化には交通混雑の解消が急務である状況に変化はない。

国道353号 交通量調査結果 渋川市北牧付近 (H22センサス)
 交通量： 16,502台/日 混雑度： 1.40



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

本バイパス事業の実施により、周辺道路の渋滞緩和、医療機関への搬送時間の短縮、関越自動車道へのアクセス向上など、吾妻地域と県央地域間における移動時間の改善を図ることができることから、目的を達成する事業として適当である。

整備推進にあたって、事業費が増加するが、従来から橋梁延長の短縮による工事費の低減や近接工区との土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費低減等に努めているところである。

【事業費の増加要因】
 金井東裏遺跡の調査が、当初、包蔵地として想定されてなかったことによる調査費増加
 発掘された 甲着装人骨 等の重要性から現地保存とすることに伴う計画変更による工事費増加

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成21年		平成26年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	3,106,000	97.3%	5,248,000	98.3%	社会的割引率を考慮した 現在価値化による	
	維持管理費	86,000	2.7%	97,000	1.7%	マニュアルの標準値から 実績値の採用に変更	
費用合計(C)		3,192,000		5,345,000			
便益 (千円)	走行時間短縮 便益	3,547,000	68.7%	5,151,000	56.3%	道路ネットワークの変更による	【将来計画ネットワーク (前回) ? 事業化ネットワーク (今回)】
	交通事故減少 便益	9,000	0.2%	663,000	7.2%		
	走行経費減少 便益	1,609,000	31.1%	3,342,000	36.5%		
便益合計(B)		5,165,000		9,156,000			
費用対効果分析(B/C)		1.61		1.71			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長 L= 1.0 km、全体事業費 37億円 (変更前) と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

・金井東裏遺跡の埋蔵文化財調査において、古墳時代後期 (6世紀初頭) に噴火した榛名山の火砕流層から甲着装人骨をはじめ 4体の人骨のほか、馬具、赤玉、古墳などが発掘された。
重要な遺跡との判断から現地保存とするため、当初の盛土構造から橋梁構造への計画変更をしたことから、開通時期が 3年遅延し平成 30年度となる見込みである。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

・事業計画の変更

・スケジュールの変更

国道 353号金井バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化やハッ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

国道 353号のほか渋川市街地周辺では、依然として渋滞が発生しているなど、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の安全安心の確保と地域経済の活性化のため上信自動車道の整備が急務となっている状況は変わっていない。

当該事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画や構造についての同意が得られたため、平成 23年度には、用地買収に着手し、平成 24年度から工事着手したところである。

金井東裏遺跡の埋蔵文化財調査において、当初、調査対象として想定外であったことにより、約 9億円の増加、さらには発掘された甲着装人骨等の重要性から現地保存とすることから、当初の盛土構造から橋梁構造への計画変更に伴い約 7億円の増加により、全体事業費が 16億円の増加となり、開通時期が 3年遅れ平成 30年度となる見込みである。今後も1日も早い開通に向けてバイパス整備を推進する。

整備推進にあたっては、ルートの見直しによる橋梁延長の短縮による工事費の低減や近接工区との土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費低減等に努めているところである。

よって、本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であり、事業継続が妥当と考える。